

富士が望める大きな屋根の環境セミナーハウス

2008年度 建築設計3年次デザイン研修課題「富士環境セミナーハウス」

出口 亮



大きな屋根について

豊かな自然環境と呼応

勾配屋根は、日本の気候風土に耐えるに適したものである。日本の自然環境の中に置かれたときに、その有機的な曲線・曲面は自然環境と呼応しながら開放的な内部空間をつくり出す。

ひとつの「大きな屋根」による一体感

異なるNPO団体が集まったときに、空間として連続させるだけでなく、意識レベルでも一体感を持てるように、ひとつの「大きな屋根」で活動の場を大らかに覆っている。

富士のある風景

富士宮市民にとって富士は、おそらく原風景と言えるものだろう。そこで、エントランスやカフェ、作業室などそれぞれの場所から富士が望めるよう計画し、更には、富士の大らかな稜線をなぞるように、「大きな屋根」は緩やかにたわんだ曲面としている。



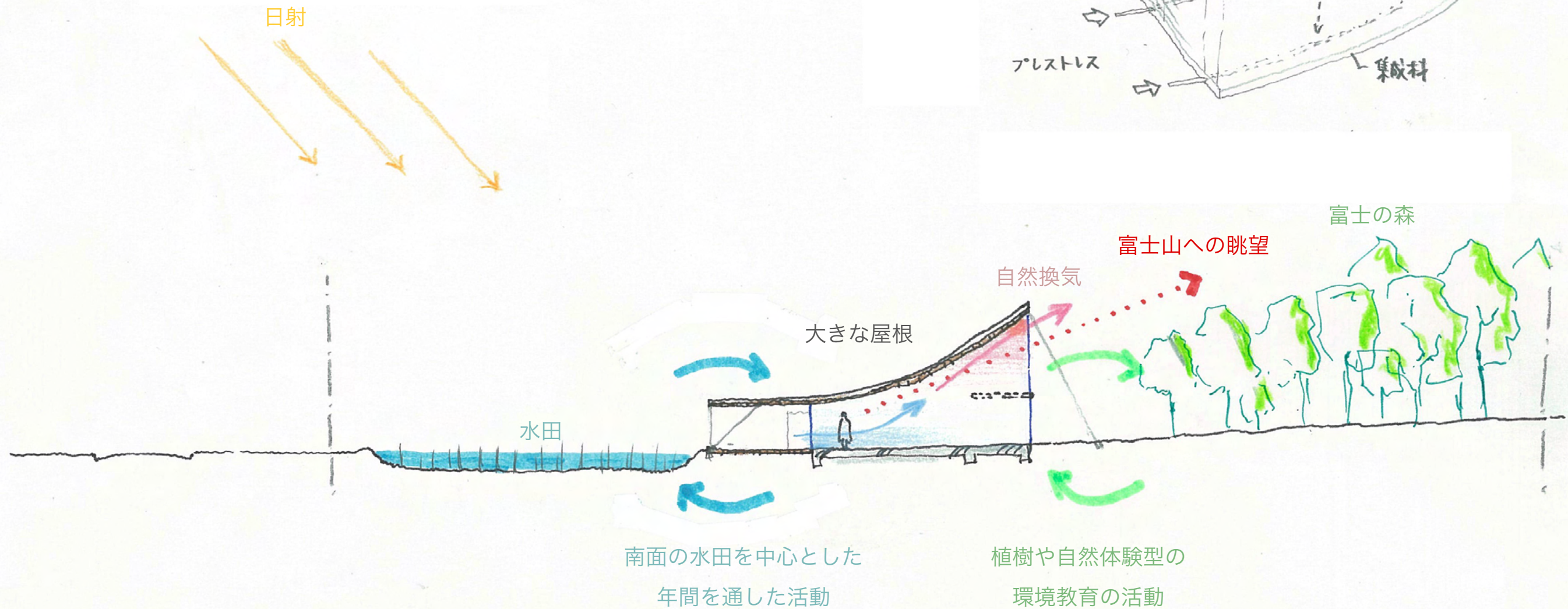
地元NPO団体が行う環境に関する活動について

地元NPO団体が行う主な活動は以下の通りである。

- 田植え、稲刈りワークショップ
- 植樹ワークショップ
- 自然観察会
- 自然体験型の環境教育
- クラフト教室
- 地場産業のPR活動

水田／セミナーハウス／富士の森

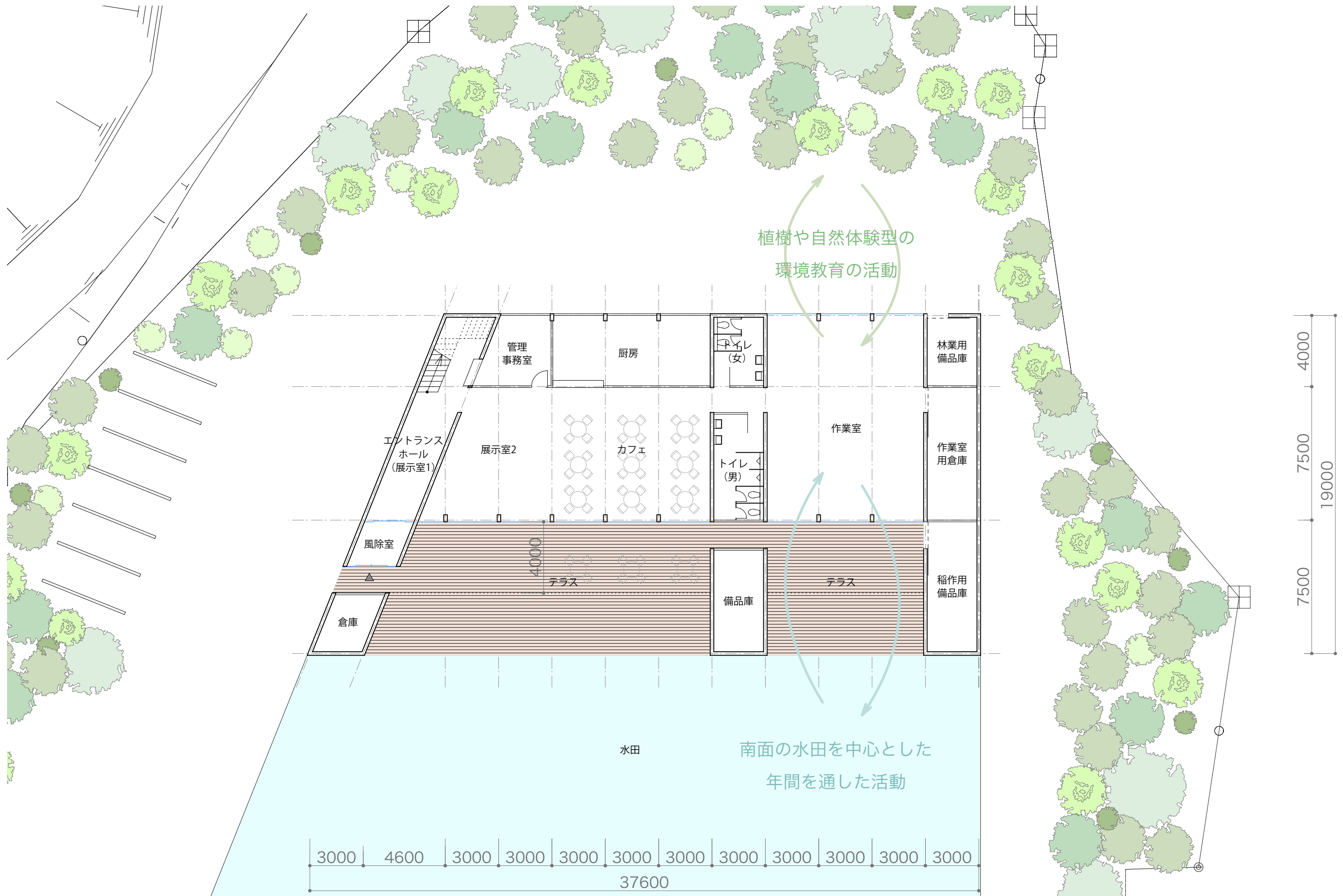
地元NPO団体の活動をより活発なものにするということからも、敷地南側に「水田」を、敷地北側に植樹し続ける「富士の森」を計画し、その間を繋ぐようにセミナーハウスを配置する。



大きな屋根の架構について

セミナーハウスの象徴となる大きな屋根は、ラミナビームにケーブルを通しプレストレスで一体化したハイブリット構造を想定している。





富士が望める大きな屋根の環境セミナーハウス

2008年度 建築設計3年次デザイン研修課題「富士環境セミナーハウス」

1階平面図 S=1/200

